

◎指示があるまで開かないこと。

(平成 31 年 2 月 10 日 15 時 55 分～18 時 30 分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は 84 問で解答時間は正味 2 時間 35 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) (例 1)、(例 2)の問題では a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)では 1 つ、(例 2)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例 1)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 2)の質問には 1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

- |   |  |
|---|--|
| <p>(例 1) 101 医業が行えるのはどれか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a 合格発表日以降</li> <li>b 合格証書受領日以降</li> <li>c 免許申請日以降</li> <li>d 臨床研修開始日以降</li> <li>e 医籍登録日以降</li> </ul> | <p>(例 2) 102 医籍訂正の申請が必要なのはどれか。2 つ選べ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a 氏名変更時</li> <li>b 住所地変更時</li> <li>c 勤務先変更時</li> <li>d 診療所開設時</li> <li>e 本籍地都道府県変更時</li> </ul> |
|---|--|

(例 1)の正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	a	b	c	d	e
			↓		
101	a	b	c	d	

答案用紙②の場合、

101	101
a	a
b	b
c	c
d	d
e	

(例 2)の正解は「a」と「e」であるから答案用紙の **a** と **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	a	b	c	d	e
			↓		
102		b	c	d	

答案用紙②の場合、

102	102
a	
b	b
c	c
d	d
e	

(2) (例3)では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3)の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d 保健指導を行う義務
- e へき地で勤務する義務

(例3)の正解は「a」と「c」と「d」であるから答案用紙の **(a)** と **(c)** と **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

103	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
			↓		
103	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> b	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> e

答案用紙②の場合、

103	103
<input type="radio"/> a	<input checked="" type="radio"/>
<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b
<input type="radio"/> c	→ <input checked="" type="radio"/>
<input type="radio"/> d	<input checked="" type="radio"/>
<input type="radio"/> e	<input type="radio"/> e

(3) 選択肢が6つ以上ある問題については質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4) 104 平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査で人口10万人当たりの医師数が最も少ないのはどれか。

- a 北海道
- b 青森県
- c 茨城県
- d 埼玉県
- e 京都府
- f 和歌山県
- g 鳥取県
- h 徳島県
- i 佐賀県
- j 沖縄県

(例4)の正解は「d」であるから答案用紙の **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、											答案用紙②の場合、	
104	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	104	104
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(a)	(a)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(b)	(b)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(c)	(c)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(d)	(d)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(e)	(e)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(f)	(f)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(g)	(g)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(h)	(h)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(i)	(i)
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(j)	(j)

(4) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案紙に記入すること。なお、(例5)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例5) 105 68歳の女性。健康診断の結果を示す。

身長150 cm、体重76.5 kg(1か月前は75 kg)、腹囲85 cm。体脂肪率35%。

この患者のBMI(Body Mass Index)を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数第1位を四捨五入すること。

解答：① ②

(例5)の正解は「34」であるから①は答案紙の③を②は④をマークすればよい。

答案紙①の場合、

①	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
105	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

答案紙②の場合、

①	②
0	0
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9









- 1 我が国の死亡と寿命の変遷について正しいのはどれか。
  - a 1950 年以降、死亡率の最も高い死因は一貫して悪性新生物である。
  - b 1960 年代中盤までの寿命の延伸の最大原因は乳幼児死亡の減少である。
  - c 1970 年代の脳卒中死亡率の低下は主として脳梗塞の減少による。
  - d 1980 年以降、肺炎の年齢調整死亡率は増加が続いている。
  - e 1990 年以降、自殺による死亡数は一貫して3万人を超えている。
  
- 2 患者調査について誤っているのはどれか。
  - a 受療率がわかる。
  - b 3年に1度行われる。
  - c 患者本人が回答する。
  - d 平均在院日数がわかる。
  - e 厚生労働省が実施する。
  
- 3 公的医療保険について正しいのはどれか。
  - a 保険料率は全国一律である。
  - b 医療給付は現金給付で行われる。
  - c 財源の8割以上は保険料である。
  - d 75歳以上はすべて1割負担である。
  - e 医療費が高額の場合には助成制度がある。

- 4 平成 27 年度の国民医療費について正しいのはどれか。
- a 介護保険費用が含まれる。
  - b 国民所得に対する比率は 10 % を超える。
  - c 一般診療所医療費は病院医療費より多い。
  - d 年齢階級別では 65 歳以上が 80 % を超える。
  - e 薬局調剤医療費は医科診療医療費より多い。
- 5 高齢者虐待防止ネットワークの構築に中心的役割を果たす機関はどれか。
- a 保健所
  - b 地域医療支援病院
  - c 市町村保健センター
  - d 地域包括支援センター
  - e 医療安全支援センター
- 6 在宅医療の医療需要の推計が示されているのはどれか。
- a 患者調査
  - b 国勢調査
  - c 健康日本 21
  - d 地域医療構想
  - e 介護保険事業計画

- 7 ある一時点での割合を示す指標はどれか。
- a 死亡率
  - b 出生率
  - c 致命率
  - d 有病率
  - e 罹患率
- 8 新しい薬剤 A の有効性を検証するためにランダム化比較試験(RCT)を行った。事前に行った症例数計算から得られた数の症例に対し、薬剤 A 又は標準治療薬をランダムに割り付けた。投薬は二重盲検で行い、死亡をエンドポイントにした研究期間終了後、生存曲線を Kaplan-Meier 法で作成し、intention to treat(ITT)による生存解析を行った。
- 手法と目的の組合せで正しいのはどれか。
- a 症例数計算 ————— 選択バイアスの防止
  - b ランダム割付 ————— 再現性の向上
  - c 二重盲検 ————— 情報バイアスの防止
  - d Kaplan-Meier 法 ————— 交絡因子の補正
  - e ITT ————— 外的妥当性の担保
- 9 健常成人の胸部エックス線写真正面像で同定できるのはどれか。
- a 胸 腺
  - b 大動脈弁
  - c 心室中隔
  - d 気管分岐部
  - e 肺門リンパ節

- 10 骨格筋の器質的な短縮によって生じるのはどれか。
- a 強 剛
  - b 強 直
  - c 痙 縮
  - d 拘 縮
  - e 振 戦
- 11 我が国の精神保健福祉について正しいのはどれか。
- a 自殺者数は男性よりも女性の方が多い。
  - b 精神疾患は医療法に基づく医療計画の5疾病に含まれる。
  - c 精神障害は障害者の雇用の促進等に関する法律の対象とならない。
  - d 精神科の人口当たり入院病床数は他の OECD 諸国に比べて少ない。
  - e 精神疾患の自立支援医療費の支給は維持治療期になれば中止される。
- 12 ノロウイルス感染症について正しいのはどれか。
- a 食前加熱が有効である。
  - b 抗ウイルス薬が有効である。
  - c 生体内でベロトキシンを産生する。
  - d ワクチンが定期接種に位置付けられている。
  - e 原因が判明した食中毒の中での患者数は第3位である。

- 13 Langerhans 細胞にみられるのはどれか。
- a Birbeck 顆粒
  - b デスモソーム
  - c メラノソーム
  - d トノフィラメント
  - e ケラトヒアリン顆粒
- 14 癌悪液質について誤っているのはどれか。
- a 慢性炎症が関連する。
  - b 抗癌化学療法によって惹起される。
  - c がん細胞のエネルギー代謝が関連する。
  - d 3大症候は倦怠感、食欲不振、体重減少である。
  - e 前悪液質、悪液質、不可逆的悪液質の3段階がある。
- 15 冠動脈バイパス術後の造影3D-CT(別冊No. 1)を別に示す。  
矢印のグラフトが吻合されているのはどれか。
- a 左冠動脈主幹部
  - b 左冠動脈前下行枝
  - c 左冠動脈対角枝
  - d 左冠動脈回旋枝
  - e 右冠動脈後下行枝

別 冊

No. 1

- 16 射精の中樞があるのはどれか。
- a 大脳皮質
  - b 橋
  - c 頸胸髄
  - d 胸腰髄
  - e 腰仙髄
- 17 生命表について正しいのはどれか。
- a 死力は定義上 1 以下の数値をとる。
  - b 平均寿命は実際の人口の年齢構造により変化する。
  - c 平均寿命は毎年の死亡者の平均年齢から算出される。
  - d 50 歳平均余命は 50 歳の者が生まれて以降の毎年の死亡率を使用する。
  - e 50 歳死亡率は 50 歳になった者が 51 歳になる前に死亡する確率である。
- 18 各種 T リンパ球〈T 細胞〉とその働きの組合せで正しいのはどれか。
- a Th 1 細胞 ————— マクロファージの活性化
  - b Th 2 細胞 ————— 好中球の活性化
  - c Th 17 細胞 ————— 好酸球の活性化
  - d 細胞傷害性 T 細胞 ————— 抗体産生の誘導
  - e 制御性 T 細胞〈Treg〉 ————— IL-6 産生の誘導

19 感染症法に基づく入院勧告の対象となるのはどれか。

- a 麻疹
- b 破傷風
- c B型肝炎
- d 鳥インフルエンザ(H5N1)
- e 後天性免疫不全症候群(AIDS)

20 胎児・胎盤について最も早期に起こるのはどれか。

- a 胎盤の完成
- b 頭髪の発生
- c 肺胞の形成
- d 精巣の下降
- e 腎臓の尿産生

21 10か月の乳児。乳幼児健康診査の結果を示す。

身長 70 cm、体重 8,330 g、頭囲 40 cm、胸囲 43 cm。

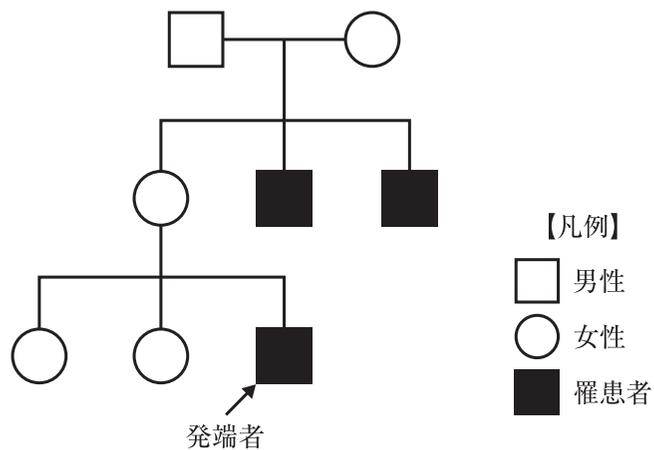
Kaup 指数はどれか。

- a 13
- b 15
- c 17
- d 19
- e 21

22 数日間で進行する高齢者の意識障害の原因として可能性が低いのはどれか。

- a 硬膜下血腫
- b 低ナトリウム血症
- c 薬剤による副作用
- d Alzheimer 型認知症
- e 腎盂腎炎による敗血症

23 家系図を以下に示す。



この家系図における遺伝形式を呈するのはどれか。

- a Duchenne 型筋ジストロフィー
- b Sturge-Weber 症候群
- c フェニルケトン尿症
- d 神経線維腫症 I 型
- e Huntington 病

24 死亡診断書について正しいのはどれか。

- a 病院が届け出る。
- b 剖検所見は記載しない。
- c 署名と押印とが必要である。
- d 主治医以外は記載できない。
- e 死因として老衰と記載できる。

25 両側難聴を主訴に受診した患者のオーディオグラム(別冊No. 2)を別に示す。

右耳の平均聴力レベル(4分法)はどれか。

- a  $(40+50+50+60) \div 4 = 50$  dB
- b  $(40+50+60+70) \div 4 = 55$  dB
- c  $(50+60+60+70) \div 4 = 60$  dB
- d  $(50+60+70+80) \div 4 = 65$  dB
- e  $(50+50+60+70) \div 4 = 57.5$  dB

別 冊

No. 2

26 定期接種として65歳時に接種が推奨されているワクチンはどれか。

- a 麻疹ワクチン
- b 肺炎球菌ワクチン
- c 髄膜炎菌ワクチン
- d B型肝炎ワクチン
- e インフルエンザ桿菌ワクチン

27 身体的フレイルの評価基準として誤っているのはどれか。

- a 易疲労感
- b 握力の低下
- c 睡眠時間の短縮
- d 歩行速度の低下
- e 日常生活活動量の低下

28 ある心理テストで用いられる図版の一部(別冊No. 3)を別に示す。

この心理テストについて正しいのはどれか。

- a 無彩色と有彩色の図版からなる。
- b テスト全体には5分程度を要する。
- c テスト全体は4枚の図版からなる。
- d 被験者は自ら質問紙に回答を記入する。
- e 精神疾患のスクリーニングが目的である。

別 冊

No. 3

29 外傷患者で診断を確定するために、単純CTに造影CTを追加することが最も有用なのはどれか。

- a 気 胸
- b 脳挫傷
- c 脾損傷
- d 肋骨骨折
- e びまん性軸索損傷

30 頻脈発作時の心電図(別冊No. 4A)と電気ショックにより洞調律に復帰した後の心電図(別冊No. 4B)を別に示す。

治療として適切なのはどれか。

- a ベラパミル経口投与
- b ジギタリス経口投与
- c 植込み型除細動器の植込み
- d カテーテルアブレーション
- e 両室ペーシングによる心臓再同期療法



31 じん肺法に基づく健康診断で必ず実施されるのはどれか。

- a 喀痰細胞診
- b 動脈血ガス分析
- c スパイロメトリー
- d ツベルクリン反応検査
- e 胸部エックス線直接撮影

32 法律とその内容の組合せで誤っているのはどれか。

- a 医療法 ————— 無診察治療の禁止
- b 労働基準法 ————— 産前産後休業
- c 健康増進法 ————— 受動喫煙の防止
- d 児童福祉法 ————— 小児慢性特定疾患の医療費助成
- e 労働者災害補償保険法 ————— 業務災害に関する給付

33 歩行補助具の写真(別冊No. 5 ①～⑤)を別に示す。

片側下肢に全く荷重させない完全免荷として屋外歩行するのに最も適しているのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤



34 2006年(平成18年)に比して2016年(平成28年)で、粗死亡率が増加しているが年齢調整死亡率が減少しているのはどれか。2つ選べ。

- a 自殺
- b 結核
- c 心疾患
- d 悪性新生物
- e 脳血管疾患

35 6か月の乳児のBCG予防接種時の問診票から得た情報のうち、接種に際して注意を要し詳細を確認すべきなのはどれか。2つ選べ。

- a 母親が卵アレルギーである。
- b 兄が先天性免疫不全症である。
- c 同居の祖父が肺結核で入院中である。
- d 本人の接種当日の体温が37.0℃である。
- c 本人が2週間前にB型肝炎予防接種を受けた。

- 36 紫外線による健康影響と考えられるのはどれか。2つ選べ。
- a 花粉症
  - b 白内障
  - c 緑内障
  - d 皮膚癌
  - e 慢性気管支炎
- 37 安静による改善が乏しい背部痛をきたすのはどれか。2つ選べ。
- a 脊柱側弯症
  - b 大動脈解離
  - c 転移性脊椎腫瘍
  - d 腰部脊柱管狭窄症
  - e 腰椎椎間板ヘルニア
- 38 COPD でみられるのはどれか。2つ選べ。
- a 残気量増加
  - b 拡散能上昇
  - c A-aDO<sub>2</sub> 開大
  - d 血清 KL-6 上昇
  - e fine crackles 聴取

- 39 妊娠中の放射線被ばくについて正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 妊娠早期の被ばくは人工妊娠中絶の適応になる。
  - b 胎児の奇形発生は閾値のある確定的影響とされる。
  - c 放射線業務従事者には線量限度が定められている。
  - d 胎児の奇形発生リスクは妊娠後期の被ばくで高い。
  - e 出生後の精神発達遅滞の発症リスクは妊娠後期の被ばくで高い。
- 40 中学校における疾患と出席停止期間の基準との組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 季節性インフルエンザ —— 発症した後5日かつ解熱後2日経過するまで
  - b 咽頭結膜炎 —— 主要症状が消退した後2日を経過するまで
  - c 百日咳 —— 特有な咳が消失後3日を経過するまで
  - d 風 疹 —— 解熱した後3日を経過するまで
  - e 水 痘 —— すべての発しんが痂皮化した後3日を経過するまで
- 41 ベンゾジアゼピン系睡眠薬で起こりやすい有害事象はどれか。2つ選べ。
- a 転 倒
  - b 失 語
  - c 企図振戦
  - d 前向健忘
  - e アカシジア

- 42 3歳児健康診査の内容について正しいのはどれか。3つ選べ。
- a 尿検査
  - b 血圧測定
  - c 歯科検診
  - d 言語障害の有無
  - e 予防接種の実施状況
- 43 地域包括支援センターに配置が義務付けられているのはどれか。3つ選べ。
- a 医師
  - b 保健師
  - c 社会福祉士
  - d 主任ケアマネジャー
  - e 医療ソーシャルワーカー

44 22歳の女性。摂食障害と筋力低下のため救急車で搬入された。18歳で失恋を契機に食事制限を開始し、摂食量および体重の減少が止まらなくなり、自宅近くの精神科に通院中であった。筋力低下のため自宅で身動きがとれなくなり、救急車を要請した。月経は3年前から停止している。意識は清明。身長152 cm、体重26 kg。体温35.1℃。心拍数48/分、整。血圧80/52 mmHg。前腕にうぶ毛の増生を認める。尿所見：蛋白(-)、糖(-)、ケトン体+。血液所見：赤血球408万、Hb11.0 g/dL、Ht38%、白血球3,300、血小板8万。血液生化学所見：AST28 U/L、ALT16 U/L、尿素窒素12 mg/dL、クレアチニン0.6 mg/dL、Na135 mEq/L、K3.0 mEq/L、Cl94 mEq/L、血糖45 mg/dL、HbA1c4.4% (基準4.6~6.2)、TSH2.8  $\mu$ U/mL (基準0.5~5.0)、FT<sub>3</sub>1.8 pg/mL (基準2.3~4.3)、FT<sub>4</sub>0.9 ng/dL (基準0.9~1.7)。経静脈的にブドウ糖を含む輸液を開始したところ、入院2日目から呼吸困難、意識障害(JCS II-20)及び全身の浮腫が出現し、血液所見はAST539 U/L、ALT654 U/Lであった。

対応として適切でないのはどれか。

- a リンを投与する。
- b 心電図を施行する。
- c 微量元素を測定する。
- d ビタミンB<sub>1</sub>を投与する。
- e 甲状腺ホルモンを投与する。

45 救急外来で小児を診察した研修医から指導医への報告を示す。

研修医：「1歳の女児です。3日前から発熱、咳嗽、鼻汁が続き、本日から四肢、体幹に発疹が出現したため来院しました。咳嗽がひどくルームエアーでSpO<sub>2</sub>が92%であり、入院も考慮する必要があると思います」

指導医：「どのような発疹ですか」

研修医：「四肢、体幹に紅色の丘疹がひろがっています」

指導医：「口腔内の所見はどうですか」

研修医：「咽頭発赤があり、頬粘膜に白い斑点があります」

指導医：「入院させる場合、この患児で特に必要な感染対策は何ですか」

これに続く研修医の返答として最も適切なのはどれか。

- a 「カーテンで隔離を行います」
- b 「聴診器を患児専用にします」
- c 「診察時にエプロンを着用します」
- d 「患児にN95マスクを着用してもらいます」
- e 「関係する医療スタッフの感染症抗体価と予防接種の状況を確認します」

46 35歳の女性。6か月前に右乳癌のため乳房部分切除を行った。現在は通院で抗癌化学療法を行っており病状は安定している。事務職として勤務していたが、手術後は休職している。本人から、現在復職に向けて職場に相談しており、病状や今後の治療について職場へ説明してほしいとの希望があった。患者の職場には嘱託の産業医がいる。

適切な対応はどれか。

- a 職場の同僚に説明する。
- b 職場の産業医に説明する。
- c 自分で説明するように伝える。
- d 労働基準監督署の許可が必要と伝える。
- e 家族の同意がないと職場に連絡できないと伝える。

47 6歳の男児。低身長を心配した母親に連れられて来院した。受診時は身長99.2 cm、体重19.0 kg。骨盤位で、経膈分娩で出生した。出生時の身長は50.2 cm、体重3,520 gであった。父の身長は174 cm、母の身長は156 cmである。患児の成長曲線(別冊No. 6)を別に示す。

母親への説明として適切なのはどれか。

- a 「直ちに成長ホルモンの薬を始めましょう」
- b 「体質的なものなので経過を観察しましょう」
- c 「これから身長が伸びることを期待しましょう」
- d 「成長に関わるホルモンの分泌を評価しましょう」
- e 「今後も身長の伸びが少なければ3年後に再度受診してください」

別 冊

No. 6

48 70歳の女性。胸背部痛のため救急車で搬入された。自宅で家事中に突然、胸背部痛を訴え、その後意識が低下したため夫が救急車を要請した。健診で血圧が高いと指摘されたことがある。ADLは自立しており、発症前の状態はいつもと変わりがなかった。搬入時、意識レベルはJCSⅢ-100。心拍数100/分、整。上肢の血圧は計測不能。下肢の血圧は70 mmHg(触診)。呼吸数30/分。SpO<sub>2</sub>計測不能。頸静脈の怒張を認める。橈骨動脈は両側とも微弱にしか触知しないが、両側頸動脈と両側大腿動脈は触知する。胸部聴診でI音とII音が減弱している。呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。四肢に網状皮斑を認める。

最も優先される検査はどれか。

- a 下肢静脈超音波検査
- b 心エコー検査
- c 胸椎MRI
- d 頭部CT
- e 胸部CT

49 34歳の初産婦(1妊0産)。妊娠37週6日の午前0時に破水感があり、午前1時に受診した。妊婦健康診査は妊娠8週から受けており、特に異常は指摘されていない。来院時、羊水の流出を認め、混濁はなかった。内診で子宮口は3cm開大していた。その後の分娩経過記録を以下に示す。

午前3時：子宮収縮は10分間隔、子宮口は5cm開大。

午前10時：子宮口は全開大。

午前11時：2,850gの女児を娩出。児娩出後、子宮収縮は不良で子宮底マッサージとオキシトシンの点滴投与を行ったが胎盤は自然娩出されず。

午前11時30分：胎盤用手剥離術により胎盤娩出。胎盤娩出後には子宮収縮は良好となり止血。分娩時の出血量は1,200mL。

正しいのはどれか。

- a 分娩の開始は午前0時である。
- b 適時破水である。
- c 分娩第1期は11時間である。
- d 分娩第3期は30分間である。
- e 分娩時出血量は正常範囲である。

50 28歳の初産婦(1妊0産)。妊娠38週4日に自然陣痛初来後、順調に経過し、経膈分娩となった。分娩経過に異常は認めず、分娩後の出血量も少量で子宮収縮は良好である。児は3,240gの男児で新生児経過に異常はない。既往歴に統合失調症があり、24歳から複数の抗精神病薬を内服している。そのため、児への母乳栄養は希望していない。

乳汁分泌抑制のために投与する薬剤として正しいのはどれか。

- a スルピリド
- b ニフェジピン
- c プロモクリプチン
- d メトクロプラミド
- e メチルエルゴメトリン

51 70歳の男性。下腿の浮腫を主訴に来院した。30年前から健診で尿蛋白と尿潜血を指摘されていた。3年前から腎臓が悪いことを指摘されていたが医療機関を受診しなかった。3か月前から下腿に浮腫を自覚するようになったため受診した。身長165 cm、体重60 kg。脈拍92/分、整。血圧186/100 mmHg。両下腿に浮腫を認める。尿所見：蛋白3+、糖(-)、潜血2+、沈渣に多彩な変形赤血球と顆粒円柱を認める。随時尿の尿蛋白/クレアチニン比は2.5 g/gクレアチニン(基準0.15未満)。血液所見：赤血球356万、Hb 10.8 g/dL、Ht 32%、白血球7,800、血小板20万。血液生化学所見：総蛋白6.5 g/dL、アルブミン3.0 g/dL、尿素窒素20 mg/dL、クレアチニン1.6 mg/dL、eGFR 34 mL/分/1.73 m<sup>2</sup>、Na 138 mEq/L、K 4.0 mEq/L、Cl 104 mEq/L。

適切な食事指導はどれか。

- a 高蛋白食
- b 多量の水分摂取
- c カリウム摂取制限
- d 1日10 gの塩分制限
- e 1日25~35 kcal/kgのエネルギー摂取

52 生後1か月の乳児。1か月健康診査のために両親に連れられて来院した。在胎38週、出生体重2,998gで出生した。Apgarスコアは8点(1分)、9点(5分)であった。出生後は完全母乳栄養であり、本日の体重は4,050gである。四肢を活発に動かし、固視を認める。体幹や四肢に2～3cmの皮疹を7個認める。体幹部の皮疹(別冊No. 7)を別に示す。父親には、鼻の周囲に多数の血管線維腫を認める。母親には皮疹を認めない。

両親への対応として適切なのはどれか。

- a 「抗真菌薬を塗りましょう」
- b 「心エコー検査を行いましょう」
- c 「皮疹は自然に消失するでしょう」
- d 「胸部エックス線写真を撮りましょう」
- e 「皮疹が悪性化する可能性があります」

別 冊

No. 7

53 68歳の女性。全身倦怠感、皮疹および四肢の脱力を主訴に来院した。3か月前から露光部皮膚に紅斑が出現した。3週間前から全身倦怠感が出現し、起床、起立および上肢挙上に困難を感じるようになった。1週間前から全身に皮疹が拡大し、食思不振も出現したため受診した。体温37.3℃。脈拍92/分、整。血圧122/88 mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub> 98% (room air)。上眼瞼および前額部に紅斑を認める。体幹など広範囲に鱗屑を伴った紅斑を認め、一部にびらんや痂皮を認める。口腔粘膜に異常を認めない。心音に異常を認めない。両側胸部に fine crackles を聴取する。頸部屈筋、四肢近位筋は徒手筋力テストで4。尿所見に異常を認めない。血液所見：赤血球416万、Hb 13.9 g/dL、Ht 39%、白血球7,400 (好中球70%、好酸球2%、好塩基球1%、単球13%、リンパ球14%)、血小板18万。血液生化学所見：総蛋白7.0 g/dL、AST 137 U/L、ALT 55 U/L、LD 421 U/L (基準176~353)、尿素窒素17 mg/dL、クレアチニン0.6 mg/dL、CK 2,010 U/L (基準30~140)。免疫血清学所見：CRP 1.1 mg/dL、抗核抗体陰性、抗Mi-2抗体陰性、抗MDA 5抗体陰性、抗TIF 1- $\gamma$ 抗体陽性。胸部CTで両側肺底部背側胸膜直下に限局した軽度の線維化病変を認める。手指および下肢の皮疹(別冊No. 8A、B)を別に示す。

この患者で最も併発しやすいのはどれか。

- a 悪性腫瘍
- b 指尖潰瘍
- c 異所性石灰化
- d 多発単神経炎
- e びらん性関節炎

別 冊

No. 8 A、B

54 35歳の男性。右胸部痛を主訴に来院した。2日前から全身倦怠感と右側胸部の疼痛があり、昨日から同部位に皮疹が出現している。2年前に左側腹部に同様の皮疹が出現したことがあったという。24歳時に急性B型肝炎に罹患している。喫煙歴と飲酒歴はない。意識は清明。身長165 cm、体重57 kg。体温37.2℃。脈拍96/分、整。血圧118/60 mmHg。呼吸数14/分。皮疹の写真(別冊No. 9)を別に示す。

抗体検査を行うべきウイルスはどれか。

- a HIV
- b EBウイルス
- c 麻疹ウイルス
- d 風疹ウイルス
- e コクサッキーウイルス

別 冊

No. 9

55 68歳の女性。5か月前からしばしば眼痛、虹視および軽度の頭痛を自覚しており、精査を希望して来院した。視力は右0.3(1.0×+2.5D)、左0.2(1.0×+3.0D)。眼圧は右19mmHg、左24mmHg。左眼の細隙灯顕微鏡写真(別冊No.10)を別に示す。

適切な対応はどれか。

- a アトロピン点眼
- b 副腎皮質ステロイド点眼
- c 高浸透圧利尿薬点滴
- d レーザー虹彩切開術
- e 硝子体手術

別 冊

No. 10

56 1歳の男児。停留精巣の手術のため手術室に入室した。麻酔はマスクで酸素と揮発性吸入麻酔薬を投与し、ゆっくりと入眠させる緩徐導入で行った。静脈路を確保し、気管挿管のため筋弛緩薬を静注したところ、突然心拍数が120/分から160/分に増加した。気管挿管時に開口障害があり、気管チューブの挿入に難渋した。人工呼吸開始後に尿道カテーテルを挿入したところ、赤褐色の尿が排出された。その後体温は急上昇し37.0℃から40.0℃になった。動脈血ガス分析で代謝性アシドーシスを認めた。

最も考えられるのはどれか。

- a 敗血症
- b 尿路出血
- c 腎盂腎炎
- d 悪性高熱症
- e 悪性症候群

57 64歳の男性。心停止のため救急車で搬入された。職場で突然倒れたため、同僚が救急車を要請した。救急隊到着時に隊員により心停止が確認され、心肺蘇生が開始された。現場で救急隊員によりAEDを用いて電気ショックが実施された。胸骨圧迫ならびにバッグバルブマスクを用いた人工呼吸、さらに2分おきに電気ショックを実施しながら、病院に到着した。搬入時、救急隊のストレッチャーから処置台に移動し、胸骨圧迫を継続した。

次に優先して行うべきなのはどれか。

- a 血圧測定
- b 気管挿管
- c 電気ショック
- d 肩をたたいて反応を確認
- e 心電図モニターの波形観察

58 2か月の乳児。肛門部の異常に気付いた母親に連れられ来院した。排便回数は1日2回で、排便時やおむつの交換時に泣く。母乳を1日に8回飲み、哺乳力は良好である。体温37.0℃。心拍数100/分、整。血圧80/50 mmHg。呼吸数20/分。腹部は軽度膨満し、肝を右肋骨弓下に2 cm 触知する。腸雑音に異常を認めない。肛門部の写真(別冊No. 11)を別に示す。触れると軟らかく、痛がる様子がある。

母親に対する説明で正しいのはどれか。

- a 「先天性の疾患です」
- b 「腫瘍性の疾患です」
- c 「細菌感染が原因です」
- d 「排便時に力むことが原因です」
- e 「肛門が裂けることで生じます」

別 冊 No. 11
---------------

59 日齢0の新生児。在胎39週3日、自然分娩で出生した。出生時啼泣はなく皮膚刺激を行ったが無呼吸のためバッグバルブマスクで換気を開始した。生後2分で自発呼吸が出現したため換気を中止した。生後5分の時点では全身にチアノーゼを認めた。心拍数140/分。呼吸数70/分。鼻腔内吸引によって強い咳嗽反射が出現した。手足をバタバタ動かしている。

生後5分のApgarスコアはどれか。

- a 10点
- b 8点
- c 6点
- d 4点
- e 2点

60 妊娠34週1日の初妊婦(1妊0産)。胎動減少を主訴に来院した。2日前の妊婦健診では特に異常は指摘されなかったが、昨日から胎動の減少を自覚しており、心配になって受診した。下腹部痛や子宮収縮の自覚はなく、性器出血や破水感の訴えもない。脈拍72/分、整。血圧124/72 mmHg。呼吸数18/分。来院後に施行した胎児心拍数陣痛図(別冊No. 12)を別に示す。

胎児の状態を評価するためにまず測定すべきなのはどれか。

- a 羊水指数<AFI>
- b 母体不規則抗体価
- c 羊水中ビリルビン濃度
- d 胎児中大脳動脈血流速度
- e 母体血中ヘモグロビンF濃度

別 冊

No. 12

61 65歳の男性。健診の胸部エックス線写真で異常陰影を指摘されて来院した。18歳から35歳まで工場でボイラーの点検保守を行っており、その後は農業に従事している。喫煙は25本/日を40年間。身長163cm、体重72kg。体温36.3℃。脈拍72/分、整。血圧102/68mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub>98% (room air)。心音に異常を認めない。呼吸音は両側下胸部で減弱している。胸部CTで胸膜プラークを認める。

原因となる曝露物質として考えられるのはどれか。

- a 石綿
- b 有機リン
- c 二酸化窒素
- d ホルムアルデヒド
- e ポリ塩化ビフェニル(PCB)

62 72歳の男性。腰背部痛を主訴に来院した。3年前に多発性骨髄腫と診断され、3種類の異なる抗癌化学療法を施行されてきたが、現在まで一度も寛解に至っていない。2か月前から腰痛、背部痛および肋骨痛が出現しNSAIDsが投与されたが、疼痛は増悪しており、最近は疼痛のため室内移動も困難であり1日中ベッドに横になっていることが多い。数日前から症状が増悪し、食欲低下および嘔吐をきたすようになった。意識は清明。身長172 cm、体重54 kg。体温37.2℃。脈拍84/分、整。血圧102/68 mmHg。パフォーマンスステータス(PS)4。眼瞼結膜は貧血様である。胸骨右縁第2肋間を最強点とする収縮期駆出性雑音を聴取する。四肢に皮下出血を認めない。血液所見：赤血球277万、Hb6.1 g/dL、Ht26%、白血球3,300、血小板4万。血液生化学所見：総蛋白11.5 g/dL、アルブミン2.9 g/dL、IgG8,450 mg/dL(基準960~1,960)、IgA26 mg/dL(基準110~410)、IgM18 mg/dL(基準65~350)、総ビリルビン0.6 mg/dL、AST23 U/L、ALT17 U/L、LD325 U/L(基準176~353)、ALP420 U/L(基準115~359)、尿素窒素30 mg/dL、クレアチニン1.8 mg/dL、尿酸9.2 mg/dL、Na145 mEq/L、K4.0 mEq/L、Cl101 mEq/L、Ca14.0 mg/dL。全身の骨エックス線写真で両側大腿骨に広範な骨融解像と第4、第5腰椎に圧迫骨折を認める。

現時点で考慮すべき治療はどれか。

- a 血小板輸血
- b 自家末梢血幹細胞移植
- c アルブミン製剤の投与
- d ビスホスホネート製剤の投与
- e 自立歩行を目的としたリハビリテーション

63 34歳の女性(1妊1産)。産後2週の妊産婦健康診査を希望して、分娩した産科診療所に来院した。2週間前に第1子である3,150gの男児を経膣分娩した。来院時の体温36.5℃。脈拍80/分、整。血圧126/76 mmHg。尿所見は蛋白(-)、糖(-)。内診で子宮復古に異常は認めず、悪露も正常であった。母乳哺育を行っているが、うまくできているかとても心配で毎日よく眠れない。育児は全く楽しくなく、ときに自分を傷つけたいとの思いが浮かぶという。日本語版エジンバラ産後うつ病質問票(EPDS)への自己記入の結果、合計点数は12点(基準8以下)であった。

この時点の対応として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 抗精神病薬を処方する。
- b 精神科への受診を提案する。
- c 児と分離することを目的に入院させる。
- d 本人の同意を得て市町村に患者情報を伝える。
- e 母乳哺育を中止し人工乳哺育にするように指導する。

64 83歳の男性。意識障害のため救急車で搬入された。夏の日中に長時間の草刈り作業中、ふらつきを訴えていた。その後、意識がもうろうとなっているところを周囲の作業者が気づき、救急車を要請した。2型糖尿病と高血圧症で内服治療中である。意識レベルJCSⅢ-100。体温38.3℃。心拍数120/分、整。血圧92/50 mmHg。呼吸数24/分。SpO<sub>2</sub>98%(マスク5L/分酸素投与下)。口腔内は乾燥しており、全身に発汗を認める。血液所見：Hb15.2 g/dL、Ht53%。血液生化学所見：Na148 mEq/L、K4.6 mEq/L、Cl104 mEq/L、血糖98 mg/dL、尿素窒素30 mg/dL、クレアチニン1.2 mg/dL。

初期対応に用いる輸液として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 生理食塩液
- b アミノ酸製剤
- c 5%ブドウ糖液
- d 高カロリー輸液
- e 乳酸リンゲル液

65 52歳の男性。人間ドックの上部消化管内視鏡検査で胃前庭部に2cmの胃癌を指摘され受診した。

治療方針の決定に有用なのはどれか。2つ選べ。

- a 拡大内視鏡
- b 経鼻内視鏡
- c 超音波内視鏡
- d カプセル内視鏡
- e バルーン内視鏡

66 69歳の男性。発熱と下腹部の緊満感を主訴に来院した。以前から排尿困難を自覚していた。数日前から頻尿と排尿時痛が出現し、今朝から38℃台の発熱と全身倦怠感および下腹部の緊満感を自覚したため受診した。腹部に肝・脾を触知しない。下腹部に緊満を認める。直腸指診で前立腺に圧痛を認める。尿所見：蛋白1+、糖(-)、ケトン体(-)、潜血1+、沈渣は赤血球5～9個/HPF、白血球50～99個/HPF。血液所見：赤血球435万、Hb13.6g/dL、Ht41%、白血球16,900、血小板16万。血液生化学所見：総蛋白6.6g/dL、アルブミン4.1g/dL、総ビリルビン0.6mg/dL、AST30U/L、ALT21U/L、血糖175mg/dL、Na141mEq/L、K4.1mEq/L、Cl105mEq/L。CRP8.5mg/dL。

この時点での治療として検討すべきなのはどれか。2つ選べ。

- a 腎瘻造設術
- b 抗菌薬の投与
- c 抗コリン薬の投与
- d 尿道カテーテルの挿入
- e LH-RH アゴニストの投与

67 50歳の女性。活動の低下を心配した夫に伴われて来院した。2か月前から朝起床はするが、朝食の準備ができず、ぼんやりと座っているようになった。それまで見ていたニュースや新聞を見なくなり、買い物には行くが、献立を決められず、何も買わずに帰ってくる状態であった。2週間前からは洗濯や掃除などの家事が全くなりなくなったため、夫に伴われて受診した。意識は清明。見当識と記憶に異常は認めない。身体所見に異常を認めない。

この患者にみられることが予想される訴えはどれか。2つ選べ。

- a 「自分のせいで家族に迷惑をかけています」
- b 「急に頭の中が真っ白になってしまいます」
- c 「テレビドラマをみると感動して涙ぐんでしまいます」
- d 「物事に何か裏の意味があるように感じられ不気味です」
- e 「趣味や好きだったことが少しも楽しめなくなりました」

次の文を読み、68～70の問いに答えよ。

65歳の男性。大腸ポリープの治療のため入院した。

**現病歴** : 1か月前の大腸内視鏡検査でポリープを指摘され、内視鏡的ポリペクトミーが予定された。

**既往歴** : 8年前から副鼻腔炎。5年前から心房細動、高血圧症および脂質異常症。3年前に2型糖尿病と診断され、インスリンを毎食前に自己注射している。

**生活歴** : 妻と2人暮らし。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

**家族歴** : 5歳年上の兄が55歳時に狭心症。

**現症** : 身長173 cm、体重68 kg。体温36.1℃。脈拍80/分、不整。血圧140/74 mmHg。呼吸数14/分。眼瞼結膜に貧血を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

68 内視鏡的ポリペクトミーに際し、特に気を付けるべき内服薬はどれか。

- a 降圧薬
- b 抗菌薬
- c 抗凝固薬
- d スタチン
- e 抗ヒスタミン薬

治療日に朝から絶食で腸管洗浄液を内服して頻回の排便を行っていた。その後、病棟の廊下でうずくまっているところを看護師に発見された。

**現 症**： 呼びかけには返答がある。体温 36.2℃。脈拍 96/分、不整。血圧 146/84 mmHg。呼吸数 20/分。眼瞼結膜に貧血を認めない。顔面は蒼白で発汗を認める。頸静脈の怒張を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟。血便を認めない。四肢に麻痺や弛緩を認めない。簡易測定した血糖値が 45 mg/dL であり、50%ブドウ糖 20 mL を静注した。

69 対応として適切でないのはどれか。

- a 緊急内視鏡
- b 家族への説明
- c 12誘導心電図
- d 血糖値の再検査
- e バイタルサインの再評価

看護師に確認したところ、朝は絶食だったが、医師から通常通りインスリン注射の指示が出ており実施したとのことであった。

70 対応として適切でないのはどれか。

- a インシデントについて患者に説明した。
- b インシデント発生時のモニター心電図の記録を保存した。
- c インシデントの内容を薬剤師と共有した。
- d インシデントの内容を診療録に記載した。
- e インシデントレポートの提出を看護師に任せた。

次の文を読み、71～73の問いに答えよ。

80歳の女性。食欲不振を主訴に来院した。

**現病歴** : 昨日の朝から気分が優れず、冷汗と息苦しさが出現し、食欲も低下した。昨晚も熟睡できなかった。今朝も同様の症状が続いていたが、本人は大丈夫と言う。同居している夫が心配し、本人とともに受診した。

**既往歴** : 変形性膝関節症、高血圧症、2型糖尿病。血糖コントロールは良好であった。

**生活歴** : 夫と2人暮らし。ADLはほぼ自立しているが、歩行時に杖が必要である。喫煙は10年前まで、20本/日を50年間。飲酒は機会飲酒。

**家族歴** : 父は脳卒中で死亡。妹が糖尿病。

**現症** : 意識は清明。身長155 cm、体重44 kg。体温36.0℃。脈拍100/分、整。血圧114/60 mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub> 98%(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。両側の軽度下腿浮腫を認める。両側アキレス腱反射の低下を認める。下肢の振動覚低下なし。

**検査所見** : 尿所見：蛋白2+、糖+。血液所見：赤血球404万、Hb 12.4 g/dL、Ht 37%、白血球15,000、血小板23万。血液生化学所見：総蛋白6.9 g/dL、アルブミン3.6 g/dL、AST 71 U/L、ALT 21 U/L、 $\gamma$ -GTP 24 U/L(基準8~50)、LD 419 U/L(基準176~353)、CK 450 U/L(基準30~140)、CK-MB 42 U/L(基準20以下)、血糖234 mg/dL、HbA1c 6.2%(基準4.6~6.2)、尿素窒素18 mg/dL、クレアチニン0.9 mg/dL、Na 140 mEq/L、K 4.0 mEq/L、Cl 102 mEq/L。CRP 0.1 mg/dL。12誘導心電図：洞調律でV1-V3誘導でST上昇、II、III、aVF、V5-V6誘導でST低下を認める。画像所見：胸部エックス線写真で心胸郭比56%、肺血管影の増強および両側の肋骨横隔膜角の鈍化を認めない。

71 最も可能性が高いのはどれか。

- a 肺気腫
- b 急性冠症候群
- c 肺血栓塞栓症
- d 甲状腺機能亢進症
- e 上腸間膜動脈血栓症

72 血糖値と HbA1c の乖離の要因として考えられるのはどれか。

- a 喫煙歴
- b 亜鉛欠乏
- c 肝機能障害
- d 白血球増多
- e 急激な高血糖

1 週間の集中治療室での管理の後に一般病棟へ転棟し、引き続き 3 週間の入院期間を必要とした。バイタルサインは安定し、食事も全量摂取であったが、変形性膝関節症による痛みでリハビリテーションを十分に施行できず、ほぼベッド上にいる状態であった。一般病棟転棟後に施行した Mini-Mental State Examination (MMSE) 28 点 (30 点満点)。退院前日の夜間にトイレから病室に戻る際に転倒した。

73 転倒の要因として考えにくいのはどれか。

- a 膝関節症
- b 長期臥床
- c 起立性低血圧
- d 認知機能障害
- e 糖尿病性神経障害

次の文を読み、74～76の問いに答えよ。

70歳の男性。労作時の息切れを主訴に来院した。

**現病歴** : 4年前に縦隔腫瘍に対し摘出手術が施行され、病理検査で軟部肉腫と診断された。2年前に肺転移に対して2か月間アドリマイシンが投与され、その後病変の増大はない。1か月前から倦怠感があり、数日前から労作時の息切れを自覚するようになった。ここ3か月で3kgの体重増加がある。

**既往歴** : 45歳から高血圧症で内服加療。

**生活歴** : 喫煙は20歳から33歳まで20本/日。飲酒は機会飲酒。

**家族歴** : 母親は肺癌で死亡。

**現症** : 意識は清明。身長172cm、体重63kg。体温36.5℃。脈拍80/分、整。血圧164/78mmHg。呼吸数18/分。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。頸静脈の怒張を認めない。胸骨正中切開の手術瘢痕を認める。Ⅲ音を聴取し、心雑音を認めない。呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。四肢末梢に冷感を認めない。両側下腿に浮腫を認める。

**検査所見** : 血液所見：赤血球399万、Hb11.6g/dL、Ht38%、白血球4,000、血小板16万。血液生化学所見：総蛋白6.2g/dL、アルブミン3.6g/dL、AST62U/L、ALT81U/L、LD251U/L(基準176～353)、尿素窒素14mg/dL、クレアチニン0.6mg/dL、血糖97mg/dL、Na142mEq/L、K4.4mEq/L、Cl108mEq/L、脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)696pg/mL(基準18.4以下)、心筋トロポニンT0.14(基準0.01以下)、CK-MB5U/L(基準20以下)。CRP0.3mg/dL。動脈血ガス分析(room air)：pH7.4、PaCO<sub>2</sub>38Torr、PaO<sub>2</sub>83Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup>24mEq/L。胸部エックス線写真で心胸郭比は3か月前に53%、受診時58%。心電図で高電位とV5、V6の軽度ST低下を認める。1年前の心エコー検査は正常である。今回の来院時の心エコー検査で左室はびまん性に壁運動が低下しており、左室駆出率は35%。

74 症状の原因として最も考えられるのはどれか。

- a 心外膜炎
- b 急性心筋梗塞
- c 拡張型心筋症
- d 感染性心内膜炎
- e 薬剤性心筋障害

75 現時点での治療薬はどれか。3つ選べ。

- a  $\beta$ 遮断薬
- b ジギタリス
- c ループ利尿薬
- d セフェム系抗菌薬
- e アンジオテンシン変換酵素〈ACE〉阻害薬

76 心不全の薬物治療を続けるうえで継続的に評価する必要がないのはどれか。

- a 体重
- b 心拍数
- c CK-MB
- d 左室駆出率
- e 脳性ナトリウム利尿ペプチド〈BNP〉

次の文を読み、77～79の問いに答えよ。

58歳の女性。血痰を主訴に来院した。

**現病歴** : 数年前から咳嗽、喀痰および労作時呼吸困難を自覚していたが、喫煙習慣が原因と自己判断し受診はしていなかった。数日前から喀痰に鮮血が混じるようになったため受診した。

**既往歴** : 20歳時に交通事故による右膝蓋骨骨折の手術を受けた。

**生活歴** : 喫煙は20歳から55歳まで40本/日。飲酒は機会飲酒。

**家族歴** : 特記すべきことはない。

**現症** : 身長153 cm、体重52 kg。体温36.2℃。脈拍80/分、整。血圧132/74 mmHg。呼吸数16/分。SpO<sub>2</sub> 97% (room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。右背部に coarse crackles を聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。表在リンパ節を触知しない。

**検査所見** : 血液所見：赤血球350万、Hb 9.8 g/dL、Ht 30%、白血球10,300、血小板30万。血液生化学所見：AST 19 U/L、ALT 15 U/L、LD 158 U/L (基準176～353)、 $\gamma$ -GTP 16 U/L (基準8～50)、総ビリルビン0.4 mg/dL、総蛋白7.2 g/dL、アルブミン3.8 g/dL、尿酸2.9 mg/dL、尿素窒素11 mg/dL、クレアチニン0.5 mg/dL、Na 140 mEq/L、K 4.0 mEq/L、Cl 105 mEq/L、Ca 8.9 mg/dL、Fe 20  $\mu$ g/dL、TIBC 231  $\mu$ g/dL (基準290～390)、フェリチン643 ng/mL (基準20～120)、CEA 4.5 ng/mL (基準5以下)。CRP 1.4 mg/dL。画像所見：上肺野(肺野条件)、中肺野(縦隔条件)、下肺野(肺野条件)及び上腹部の造影CT(別冊No. 13 A～D)を別に示す。呼吸機能所見：現在と20歳時の膝蓋骨骨折手術前のフローボリューム曲線(別冊No. 13 E、F)を別に示す。

別冊

No. 13 A～F

77 20歳時と比べた現在のフローボリューム曲線の所見として正しいのはどれか。

- a  $\dot{V}_{25}$  の増加
- b 残気量の低下
- c 肺拡散能の上昇
- d 努力性肺活量の低下
- e ピークフローの上昇

78 実施した生検の結果では、いずれも肺腺癌の所見であった。

患者に説明する内容として誤っているのはどれか。

- a 治癒は困難である。
- b 腫瘍の遺伝子検査が必要である。
- c 薬物による抗癌治療が適応となる。
- d セカンドオピニオンを受けることができる。
- e 緩和ケアは抗癌治療が終了してから始める。

説明を聞いた患者は家族と相談してからの意思決定を希望し、1週間後の再受診を予定した。その再受診の前日に咳嗽の増加に伴い1回30～50 mL程度の咯血を連続して3回認めた。翌日の受診時、咳嗽を頻繁に認めるが咯血は認めず、喀痰には赤褐色の血液が付着している。脈拍104/分、整。血圧140/88 mmHg。呼吸数12/分。SpO<sub>2</sub> 96% (room air)。血液所見：赤血球 339万、Hb 9.5 g/dL、Ht 29%、白血球 8,900、血小板 29万。

79 対応としてまず行うのはどれか。

- a 赤血球液-LR 輸血
- b 鎮咳薬投与
- c 鉄剤投与
- d 酸素投与
- e 補液

次の文を読み、80～82の問いに答えよ。

67歳の男性。突然の嚥下困難のため救急車で搬入された。

**現病歴** : 本日、昼食中に突然、後頭部痛、めまい及び悪心を感じて嘔吐した。しばらく横になり様子をみていたが、帰宅した妻から声を掛けられ返答したところ、声がかすれて話しにくいことに気が付いた。水を飲もうとしたがむせて飲めなかった。心配した妻が救急車を要請した。

**既往歴** : 40歳から高血圧症。

**生活歴** : 妻と2人暮らし。喫煙は10本/日を45年間。飲酒は機会飲酒。

**現症** : 意識は清明。身長165 cm、体重60 kg。体温36.6℃。心拍数72/分整。血圧160/90 mmHg。呼吸数12/分。SpO<sub>2</sub> 97% (マスク4 L/分酸素投与下)。甲状腺腫と頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。神経診察では、眼球運動に制限はなく複視はないが、構音障害と嚥下障害を認める。左上下肢の温痛覚が低下している。腱反射に異常を認めず、Babinski 徴候は陰性である。

**検査所見** : 血液所見：赤血球452万、Hb 13.1 g/dL、Ht 40%、白血球5,300、血小板32万。血液生化学所見：総蛋白8.1 g/dL、アルブミン4.2 g/dL、総ビリルビン1.0 mg/dL、AST 15 U/L、ALT 18 U/L、LD 280 U/L (基準176～353)、ALP 213 U/L (基準115～359)、 $\gamma$ -GTP 18 U/L (基準8～50)、CK 50 U/L (基準30～140)、尿素窒素20 mg/dL、クレアチニン0.7 mg/dL、尿酸4.2 mg/dL、血糖82 mg/dL、トリグリセリド185 mg/dL、HDL コレステロール40 mg/dL、LDL コレステロール200 mg/dL、Na 145 mEq/L、K 3.9 mEq/L、Cl 104 mEq/L。CRP 0.2 mg/dL。頭部MRI 拡散強調像(別冊No. 14)を別に示す。

別冊

No. 14

- 80 この患者でみられる可能性が高いのはどれか。
- a 左小脳性運動失調
  - b 左顔面温痛覚低下
  - c 右 Horner 症候群
  - d 右上下肢運動麻痺
  - e 右上下肢振動覚低下
- 81 異常所見を示す可能性が最も高い検査はどれか。
- a 脳波
  - b 聴力検査
  - c 視覚誘発電位
  - d 眼球運動検査
  - e 末梢神経伝導検査
- 82 入院後に行った嚥下造影検査で、造影剤の気道内流入が認められた。  
この時点の対応として適切なのはどれか。
- a 胃瘻造設
  - b 失語症訓練
  - c 経鼻経管栄養
  - d 食道発声訓練
  - e 高カロリー輸液

83 広範囲熱傷受傷早期のショックにおいて想定されるのはどれか。

	心拍出量	中心静脈圧	体血管抵抗
a	上 昇	上 昇	上 昇
b	上 昇	上 昇	低 下
c	上 昇	低 下	上 昇
d	上 昇	低 下	低 下
e	低 下	上 昇	上 昇
f	低 下	上 昇	低 下
g	低 下	低 下	上 昇
h	低 下	低 下	低 下

84 19世紀のロンドンで、激しい下痢を伴う、後にコレラと判明する疾患が大流行した。疫学者の John Snow は水道水との関連を疑い、詳しい調査を行った。調査の結果の概要を以下に示す。なお、表中の A、B は異なる水系を持つ供給元である。

供給元	死亡数(人)	人口(人)
A	810	150,000
B	18	24,000

この疾患の死亡に関する A の B に対するリスク比を計算せよ。

ただし、小数第 3 位以下の数値が得られた場合には、小数第 3 位を四捨五入すること。

解答：  .

- |   |   |   |
|---|---|---|
| ① | ② | ③ |
| 0 | 0 | 0 |
| 1 | 1 | 1 |
| 2 | 2 | 2 |
| 3 | 3 | 3 |
| 4 | 4 | 4 |
| 5 | 5 | 5 |
| 6 | 6 | 6 |
| 7 | 7 | 7 |
| 8 | 8 | 8 |
| 9 | 9 | 9 |









